

ピアワークによる思春期健康教育の取り組みについて

—生徒の感想から見たこと—

栗原保健所 母子・障害班 ○技師 鈴木 智恵
技術次長 由井 幸子

Key words: 思春期ピア、性教育、生徒・支援者との協働、自分と他者を大事にすること

I はじめに

近年、メディアや Social Networking Service(SNS)の普及により、性行動が低年齢化している¹⁾。さらに、10代の妊娠・中絶や性感染症なども問題視されている²⁾。このような状況を受け、「健やか親子21」では、「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を主要課題のうちの一つとして掲げ、国を挙げて思春期保健事業に取り組んでいる³⁾。栗原管内においても例外ではなく、10代の妊娠・出産に関する事例がある。そこで当所では、10代の望まない妊娠、人工妊娠中絶の防止を目標とした「くりはら思春期健康教育事業」を実施している。

具体的な活動は「ピアによる健康教育（以下、ピアワーク）」であり、平成20年度より実施している。「ピア」とは仲間、同僚などを意味する言葉であり、ピアによる教育は自分たちの問題に自分たち自身で気づき、主体的な行動変容を促すのに効果的であると考えられている⁴⁾。今回は中高生を対象にピアワークを実施し、体験者の感想から得られたピアワークの有効性や重要性について報告する。

II 活動内容

【目的】ピアワークを通して、思春期にある子ども達が、自分にはかけがえのない大切な存在であることを認識することにより、他者をも大切にし、性の自己決定能力を高めること。

【方法】栗原市・宮城県迫桜高等学校・栗原保健所が協働で実施し、管内の高等学校・中学校を対象とした。事業は、ピア育成研修と、育成研修を終えたピアによる管内の高校生・中学生へのピアワークの2部構成とした。事業全体を通し、支援者はピア生徒のサポートを行った。ピア育成研修では助産師や支援者を講師とし、「妊娠から出産までの過程」「栗原市の10代の妊娠・出産・育児の現状」「性感染症」の講話を実際の体験を踏まえながら行った。その後、グループワークを行い、講話や体験を通して学んだこと・感じたことについて同年代の生徒に伝えたい内容を自分たちの言葉でまとめた。ピアワークは高校生ピアが中心となり、中学生ピアがサポートし、管内の中学校2校、高等学校1校で実施した。ピア育成研修の講話・体験のほか、ピア自身が考案した「劇：大好きな彼氏にセックスを誘われたら」「中絶経験をした女子大生からの手紙の朗読」などが行われた。実施後の生徒からは、「年が近いので内容の重要性が伝わり、しっかりと考えることができた」「大人が言いにくいことも同年代の人なら言えて、いい授業だと思った」「自分と自分の周りの人を大切にしなければならぬ」等の感想があり、実施したピアからは「生徒から生徒に話すことの大切さが分かり、しっかりと伝えることができた」「自分自身の考え方を変えることが出来た」等の感想があった。

III 考察

思春期にある子ども達は「大人なんかにはわからない」と反発し揺れ動いている。そのため従来の大人からの健康教育は、一方的な価値観を押しつけられていると感じ、指導内容を素直に受け入れることが難しい⁴⁾。本事業の感想や実施中の様子からは、同世代の同じ文化・価値観を持つ「仲間」から伝えられることで素直に内容を受け止めている様子が伺え、ピアワークの有効性が確認できたと思われる。また、生徒たちは自ら自身の成長やピアの重要性を実感できており、思春期にある子どもたちの主体的な行動変容・自己決定能力向上の促進にもつながると考える。

現在の課題は、本事業が他の中学校・高等学校への普及が進まない点である。本事業の目標を達成するには、より多くの学校への普及が必須である。今後どのような取り組みが必要となるか、関係機関と共に考えてゆきたい。

IV 結論

思春期でのピアワークは、生徒が素直に学習することができ、命の大切さや自分・相手を大切にすることについて実感できる。思春期の子どもたちに性の自己決定能力を高めるうえで有効であった。

VI 引用・参考文献

- 1) 日本性教育協会 (2011) 「第7回青少年の性行動全国調査『若者の性』白書」
(<http://www.jase.faje.or.jp/jigyoyouth.html>, 2015.1.22)
- 2) 今井博久 (2012) 「若年者の性感染症の現状と予防」『現代性教育研究ジャーナル』No.16:1-8
- 3) 厚生労働省 (2013) 「『健やか親子21』最終評価参考資料集」
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000060348.html>, 2015.1.22)
- 4) 高村寿子 (2005) 『思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル』小学館。